

一誌一句(受贈誌 6・7月号他より)

米田 透 抄出

緑蔭と謂う生国を歩きけり

(草 炎)

久行 保徳

春を惜しみて坊ちゃんの湯に遊ぶ

(加里場)

井上 論天

奥入瀬の水音清し新樹光

(あかざ)

池田恵美子

ぶらんこを乗り捨て妻の反抗期

(齒 車)

前田 弘

曼荼羅の真中に在す暁の蜘蛛

(雪 華)

橋本 喜夫

夏至の日に見る忠敬の羅針盤

(雲の峰)

朝妻 力

三個ほど素数を拾う初夏の朝

(天籟通信)

福本 弘明

堂塔は青葉がくれや鎌倉路

(駒 草)

西山 睦

船頭の棹のしなりや夏の川

(燎)

佐藤 風

「風港」の終刊号や春惜しむ

(深吉野)

深沢 暁子